

## 社会科・地理歴史科・公民科 教科主題

### 『学ぶ』から『探す』へ

—社会科・地理歴史科・公民科における『探究』とは—

平成30年7月に示された新「高等学校学習指導要領解説（地理歴史編・公民編）」では、主体的・対話的で、深い学びの実現に向けた授業改善を進める際の留意点として、次の5点が示された。

- 1 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、生徒に目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業改善を進めるものであること。
- 2 各教科等において通常行われている学習活動(言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など)の質を向上させることを主眼とするものであること。
- 3 1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。
- 4 深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。
- 5 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、それを身に付けさせるために、生徒の学びを深めたり主体性を引き出したりといった工夫を重ねながら、確実な習得を図ることを重視すること。

社会科・地理歴史科・公民科の学習において、生徒に社会的事象を自ら探究させていくためには、その前提として、生徒に何を学ばせるべきなのか。昨年度の研究大会では、この問いに対して、二つの授業実践が示された。すなわち、中学1年「歴史的分野」・高校I年「現代社会」の二つの授業は、いずれも、アクティブラーニング型といえるものであった。双方とも、生徒に議論をさせ、それを整理し、まとめて言語化し発表させるというプロセスをとり、そのような「主体的」「対話的」な活動の中で、「見方・考え方」を獲得させ、「深い学び」に導くという方略が示された。

今年度の研究大会では、昨年度の実践を踏まえて、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を目標とする、探究的な活動を取り入れた授業実践の一事例を示す。新型コロナウイルスの影響で、本年度は1つの授業実践しか示すことができないが、地理歴史科「世界史B」の実践を例示する。

「世界史B」はまもなく科目として終焉を迎えるが、新課程における後継科目は「世界史探究」と考える。「世界史探究」の目標は、「社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する」となっている。今回の研究授業は、「世界史探究」の先行実践と位置づける。「世界史探究」は、現行「世界史B」を改善するために、次の6項目が重視されている。すなわち、①「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実。②「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開。③単元や内容のまとまりを重視した学習の展開。④世界の歴史の大きな枠組みと展開を捉える内容の構成。⑤資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習。⑥歴史的経緯を踏まえた地球世界の課題の探究、である。今回は、6項目のうちから、特に②④⑤にウエイトを置いた実践を、探究学習の一事例として提示したい。